

ライトアップされたお城をバックに大輪の花火が舞ったフェスティバル



## 岩崎城をテーマにイベント 灯りとお城のフェスティバル

地域のシンボル岩崎城を内外に発信し、地域づくりや交流を深めようと「灯りとお城のフェスティバル」(同地区自治振興協議会主催)は6日、岩崎城址一帯で開かれました。会場では、地区の青年会や和賀東中学校の生徒手作りの雪灯りとあんどんがやさしい光で来場者をお出迎え。佐々木由香利さんのジャズコンサートや岩崎地区などで収録された映画「いのちの山河」の上映、打ち上げ花火などがにぎやかに行われました。

この事業は、(財)地域社会振興財団の助成と(財)地域活性化センターの後援を受けて開催されました。

## 藩境に生きた人々を熱演 第33回北上市民劇場

(財)北上市文化創造と北上市民劇場を盛り上げる会「やっべし」主催の第33回北上市民劇場「風・風・風～藩境に生きた人々のものがたり～」は1月30、31日の両日、さくらホールで開かれました。舞台は江戸時代。南部と伊達の藩境で繰り広げられる農民の苦悩の姿や藩境が定められた諸説、藩境を越えた恋模様などを市民キャストが生き生きと演じました。

市民劇場は脚本作りから大道具製作まで市民手作りの舞台。上演後には会場から多くの拍手が沸き起こりました。



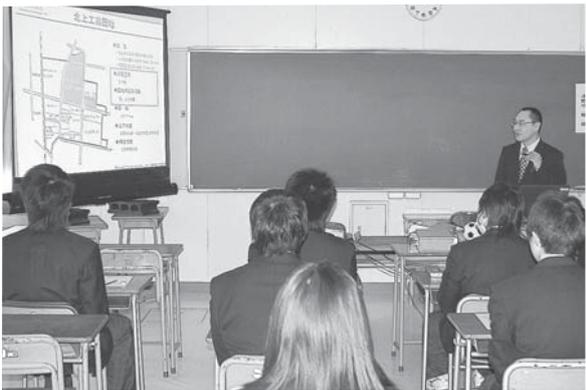
伊達と南部の藩境に暮らす人々の暮らしを演じた北上市民劇場

## なりたい職業を思い描く 翔南高でステップアップ講座

NPO法人よつばネット(佐々木利幸理事長)主催の職業観ステップアップ講座は1月26日、北上翔南高校で開かれました。2年生236人が参加。製造業や介護福祉など10分野の社会人を講師に迎え、職業についての理解を深めました。製造業の講座では、岩手東芝エレクトロニクス(株)の小野寺敏さんが、会社概要や社会人としての心構えなどを説明しました。

佐々木理事長は「働く人の生の声を聞くことで、仕事を考えるきっかけになってほしい。将来は市内の中学校でも実施したい」と話していました。

事前アンケートを基に少人数グループで実施された講座



黒沢尻東、黒沢尻西、南小の児童13人が所属する黒東スポーツ少年団

## 初の全国大会出場決める 黒東ミニバスケットスポーツ少年団

第33回県ミニバスケットボール交歓大会女子の部で初優勝した黒東ミニバスケットボールスポーツ少年団(後藤治子代表)は1月28日、伊藤市長を表敬訪問しました。同大会は盛岡市で1月9日から11日にかけて開催され、黒東は決勝戦で末崎(大船渡)を接戦の末33-30で下しました。主将の千葉菜々子さん(黒沢尻東小6年)は「優勝する気で挑んだ。全国大会では1試合でも多く勝ちたい」と意気込みを語りました。

全国大会は3月28日から代々木体育館(東京都)で開かれます。

地元の特産を使ったうどんは児童に大好評。みんな残さずに食べていました



## 地元の桑うどんを満喫 給食のメニューに初登場

中央学校給食センター管内の小学校11校で1月28日、桑うどんが給食に初登場しました。桑うどんは、更木地区で生産された桑茶パウダーを練り込んだうどん、カルシウムや鉄が多く含まれています。

更木小学校では5、6年生と桑の葉を生産する更木ふるさと興社(小原孝也代表取締役社長)などの関係者35人が試食会を開催し、交流を深めました。長根和樹君(5年)は「桑が入ったものを初めて食べた。苦みが嫌いな人でも食べられそう。次は桑入りの冷麺やラーメンを食べてみたい」とリクエストしていました。

## 食を通じて交流深める きたかみ冬物語

若者の交流と勤労青少年ホームのPRを目的にきたかみ冬物語は1月31日、同ホームで開かれました。

開会行事では自治会長の瀬川恵さんが「いろいろ参加して、楽しんでください」とあいさつ。続いて、長さ10mの巨大恵方巻きを参加者で作り、西南西に向かって願い事を祈りながら食べました。「全国&海外グルメ試食会」では、横手焼きそばやシロコロホルモン、富士大学留学生による手作り水餃子など8品目が登場。和賀町横川目の照井麻理恵さんと鈴木麻衣子さんは「どれもおいしかった」とご満悦でした。



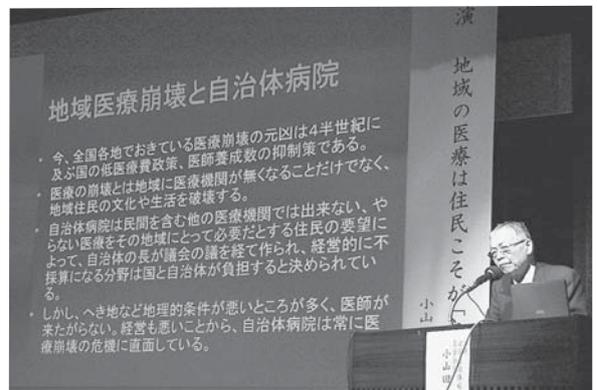
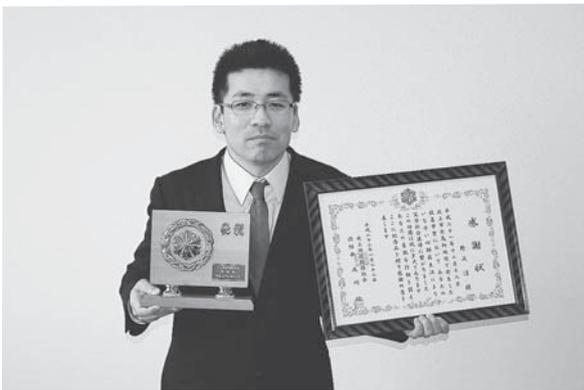
息を合わせて10mの恵方巻きを作る参加者

## とっさの判断で人命救う 看護師の野又さん

北上地区消防組合(及川諭消防長)は1月22日、北鬼柳のショッピングセンター付近で、のどにもちを詰まらせた高齢者に応急処置を施した看護師の野又淳さん(花巻市)に感謝状を贈りました。

野又さんは昨年12月18日、路上で倒れていた女性を発見。安全な場所に避難させ、救急車到着までの約2分間心臓マッサージを行いました。女性は車内で自発呼吸を再開し、もちを取り除くことができ、6日後には退院。野又さんは「するべきことをしただけ。命を取りとめたと聞き安心した」と話していました。

感謝状を手にする野又さん。迅速な対応が命を救いました



県立中央病院長や全国自治体病院協議会会長を務めた小山田氏

## 地域医療の主役は住民 みんなで支える体制を

「みんなで支える地域医療シンポジウム」(北上保健所など主催)は9日、日本現代詩歌文学館で開かれました。北上、花巻、遠野市、西和賀町の医療関係者や住民など約120人が参加。全国自治体病院協議会名誉会長の小山田恵氏による基調講演やパネルディスカッションを通して、地域医療の現状や医療を支えるために一人ひとりができることについて理解を深めました。

小山田氏は、「地域の医療は住民こそが『主役』」と題して講演。国や市町村長、病院がそれぞれの役割を果たすとともに、住民の意識向上を呼び掛けました。